

## ！ 居眠り運転防止等に効果的な「メロディーロード」を開発

乗用車において室内に侵入する車両走行音が音楽を奏できるように工夫された舗装「メロディーロード」を開発。現在、製品化から6年になるが、全国6箇所の道路でこの「メロディーロード」の施工を行っている。

### 本業の動向について

道路工事・建設、護岸工事・建設などの土木建設業を主要業とする。

公共投資の削減により、公共土木事業は、過去20年間で年々減少を続けており、ピーク時の20%まで減少した（最盛期を100とすると、現在は20にまで減少している）。

世界、日本国内の景気の悪化による民間投資の減少、また、史上最大の大規模災害・大規模事故等による国家予算の偏りへの不安等がある。

### 公設研究機関との連携事業について

#### 連携先公設研究機関の名称

地方独立行政法人北海道総合研究機構  
産業技術研究本部工業試験場

#### 所在地

北海道札幌市北区北19条西11丁目

#### 連携内容

車のスピード出しすぎ防止や居眠り運転防止に効果のある「メロディーロード」の開発と普及である。

「メロディーロード」とは、乗用車において室内に侵入する車両走行音が音楽を奏できるように工夫された舗装、またはその舗装を施した道路のことである。

道路に刻む溝と溝との間隔を音符ごとに変えて音階の違いを表現できる。

#### 連携した動機やきっかけ

「メロディーロード」の開発に当たり、当社所在地周辺に専門的研究機関が無かったため、北海道の外部機関であった工業試験場へ相談した。事業の将来性から共同研究、開発、特許出願となった。

#### 連携の効果

声や音階、音楽等の研究機関の専門家による意見、技術的な指導を得ることができた。研究機関において専門的機器等の利用が出来た。全国的な商品である為、会社の信用度や商品の品質、完成度などの点で社会的信用度合いの向上・確保が可能であった。

#### 連携して最も効果のあったこと

専門的な知識等を利用することにより、早期事業化の進捗率の向上を図ることができ、事業計画から研究・開発なども含め1年位で製品化に至った。

現在、製品化から6年になるが、全国6箇所の道路でこの「メロディーロード」の施工を行っている。

#### 連携して最も困難だったこと

公的機関との連携ということで、規約・規定による行動の制限があった。手続きなどの面で民間と違い時間がかかり不具合を感じた。民間と公的機関ということで、多少の温度差が有り、それが事業推進にあたりハードルとなった。

#### 連携するメリット・デメリットについて

メリットとしては、技術的ネットワークの利用が可能であった。信用度の確保が可能であった点である。

デメリットとしては、規約・規定による行動の制限。諸手続き時間を要する点があげられる。

#### 連携に際しての注意、アドバイスなど

手続き関係の迅速化を図ること。甲乙契約の内容の把握とよく確認をすること。

### 公設研究機関との連携で行政に望む支援

民間と連携した場合の、規約・規定による行動の制限の緩和措置。共同開発費の負担行為。

#### 会社概要

設立:昭和48年2月26日

資本金:2,670万円

従業員数:7名

URL: <http://www.melodyroad.jp/>